

日本不妊看護学会ニュースレター No.11

Japanese Society of Infertility Nursing (J.S.I.N)

不妊看護は、生殖医療技術の進歩に伴い、今後大いに発展していく看護領域です。その中で、消蔓者の方々の声を聞き、私たちがこれから何ができるかを考えていくことは、ニーズに沿った看護を提供する上でとても重要であると思います。

今回の11号では、不妊に悩む人・不妊の問題をかかえた人のための自助（セルフ・ヘルプ）グループ、

患者も看護職の「よきサポーター」をめざす時代

フィンレージの会 鈴木良子

「不妊看護」という言葉が登場したのは、もう10年以上前だろう。最初に耳にしたときはピンと来ず、また看護者から「不妊は特別なケアが必要」などと言われると、正直「わたしらトキか？」という気分にもなった。むろんそれなりの配慮は必要だろうけれど、不妊ってそんなに、“特別”かなあ。そんなに他の問題と違っているのかなあ……。そんな思いが、今もある。

私なりに言い換えれば、不妊はそれまで世間にも可視化しにくい、あるいはなかなかオープンにならなかった問題であり、看護職にとっても未開拓の分野であった、ということなのだと思う。実際、教育課程では「母性看護」という名称が使われているし、その中で不妊が積極的に取り上げられることはいまだ多くないと聞く。

しかし産婦人科現場はといえば、思春期ケアから10代の妊娠、中絶、流産、死産、不妊、さらには出生前診断から遺伝カウンセリング、更年期、老年期、考えようによっては婦人科ガンまで、扱うべき問題は恐ろしく広がっている。もはや男女双方に対する「生殖ケア」あるいは「セクシュアリティケア」の時代ではとおもうほどだ。その中の一分野として「不妊」がある、ということなのだろう。

そう、不妊はある意味でセクシュアリティの問題。もっと言うなら「ライフ」、その人の人生あるいは生き方そのものに関わる問題であり、ケアも不妊治療にともなう事柄だけでなく「丸ごとのその人」をみつめるまなざしが必要なのだと思う。日本不妊看護学会が設立趣旨に

目次

* フィンレージの会	1
~ 患者も看護職の「よきサポーター」をめざす時代	
* NPO法人fine	2
~ 当事者の立場から当事者を支える努力	
* 平成18年度 関連学会・研修会等のお知らせ	3
* もし不妊看護実践で行き詰まったら	4
* 勉強会報告(九州地区)	5
* 第4回日本不妊看護学会学術集会のご案内	6
* 第6回理事会報告	7
* 掲示板 すまいる「親の会」からのお知らせ	8
「無精子症と診断されたカップルに寄り添うケア」	
* 事務局からのお知らせ・編集後記	8

『不妊ケアとして当事者が求めるニーズは、専門医療機関を訪れる以前から始まり、妊娠・出産を果たした後や生殖期を越した後の人生、新たな家族にまで及ぶものです。』と書いているのは、その意味では透見だ。

といっても、看護職のそうした思いや専門性は、現場ではさまざまな壁に阻まれがちなのも事実。むしろここは“患者”の立場の人間が、看護職の地位引き上げ - すなわち医師以上に看護職を「頼り」にすること、その存在を“可視化”“意識化”し、率直に遠慮なく要望を伝えていくことが重要なのかな、とも思う。

9月の第4回日本不妊看護学会学術集会のテーマには「サポーター」という言葉が用いられているが、サポートされる側であると同時に、患者も看護職の「よきサポ-

ーター」なのではないか。「よい医者は患者が待てる」と言われるが、頼りがいあるよき看護職も、実は患者が育てるのかもしれない。そんなことを、いま考えている。



フィンレージの会

<http://www6c.biglobe.ne.jp/~rinrrage/index.html>

NPO法人Fineのご紹介

NPO法人Fine代表 松本 亜樹子
NPO法人Fine広報 手塚 八重子

私たちNPO法人Fine (Fertility Information Network=ファイン) は、不妊体験者による、不妊体験者のための、セルフサポートグループです。現在不妊治療中の人や中断している人、治療の未出産した人、夫婦ふたりの生活を選んだ人、養子を迎えた人など、さまざまなメンバーで構城されています。不妊を体験した者同士が心の声を聞き合い、手をつなぎ、輪を広げたいと思っています。

結婚していながら子どもがいないという状況は、まだまだ周囲の押解を得られない事柄といえます。努力を重ねても子どもを授かることができない「不妊」は、計り知れない苦しみを伴うため当事者の精神的負担は深く、また特別視されるがゆえに相談者をなくし、当事者はますます孤独に陥りがちです。「不妊」や「不妊治療」を社会全体が正しく理解することにより、不妊は罪悪感や劣等感を抱くべきことでも恥ずべきことでもなく、もちろん決して同情されることでもない「単なる事実」であること、不妊にかかわるすべてのことがごくありふれた事実になることが理想だと、Fineでは考えています。

ですから私たちは、不妊治療患者が正しい情報に基づき、自分で納得して選択した治療を安心して受けられる環境を築ること、また不妊体験者が社会から孤立することなく、健全な精神を持ち続けられる環境を超えることを目的として活動しています。

私たちは、おもにウェブサイトを通じての情報提供や情報交換、仲間づくりによる不妊治療患者の支援、啓発活動、患者と医療機関や公的機関の橋渡し、治療環境の向上を目指した運動、医療機関認定審査への患者代表委

員としての参加などを活動として行なっています。公的機関への働きかけとしては、不妊当事者への調査結果を厚生労働省に要望書を提出するなど、今後も積極的な活動を予定しています。また、昨年度からFineピア・カウンセラー養成を開始し、今春一期生が誕生しました。

本科生は体験者対象ですが、単位聴潤生はどなたでも1単位から受講できます。ご興味をお持ちいただけましたら、ぜひウェブサイトをご覧ください。

<http://j-fine.jp/counseling/2006/piacouns.htm>

Fine設立に際しては、当事者のニーズをよりの確に把握しサポートするため、20サイトにご協力いただき、総計442名の体験者から回答を得ました。特筆すべきは、8~9割の方々が「医療機関へ提言」と「カウンセリングを希望日されていたことです。言いたいことがあるのに言えない、どうしていいかわからない、でも聞いてほしいのです。

私たちがピア・カウンセラーとして当事者の立場から当事者を支える努力を行なってまいりますが、ピアにできるサポートは、その一部にしか過ぎません。やはり医療のプロの支えは必要不可欠なものです。とりわけ不妊に携わる看護職の方々は、私たち当事者にとってもっとも身近な存在です。看護師の方々が支えてくださっていることはどれほど心強くありがたいことでしょうか。どうぞ引き続き当事者の心に寄り添っていただければと思います。

NPO法人Fine

<http://www.j-fine.jp>

平成18年度 関連学会・研修会等のお知らせ

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
平成18年7月	9日	日本女性心身医学会（第35回） 2006年7月9日	大宮ソニックシティ （さいたま市）	濁協医科大学越谷病院産科婦人科内： TEL（048）965-8597 FAX（048）965-1751 http://www.jspog.com/
	22日	日本ウーマンズヘルス学会（第5回）	リーガロイヤルホテル 早稲田 （東京）	東京女子医科大学看護学部： TEL（03）3353-8111（内7056・7023） FAX（03）3341-8832 http://www.whs.jp
	24日・25日	日本看護学会・母性看護（第37回）	パシフィコ横浜 （横浜市）	日本看護協会看護教育研究センター 教育研究部学会係： TEL（0424）92-9120 http://www.nurse.or.jp
8月	1日～3日	継続研修会 「生殖医療と不妊看護」	日本看護協会神戸研修センター （神戸市）	日本看護協会神戸研修センター http://www.nurse.or.jp/kobe
	3日～6日	日本家族計画協会 「コメディカルのための遺伝カウンセリングセミナー（初級）」	全国町村議員会館 （東京都）	日本家族計画協会 研修課 TEL（03）3269-4785 IP電話（050）3386-3052 FAX（03）3267-2658
	4日	継続研修会 「エイズ・性感染症予防の最新動向」	日本看護協会看護教育研究センター （清瀬市）	日本看護協会看護教育研究センター http://www.nurse.or.jp/kiyose/keizoku/sanka.html
	4日・5日	日本カウンセリング学会（第39回）	大宮ソニックシティ （さいたま市）	日本カウンセリング学会 第39回大会事務局： TEL（078）366-5050 FAX（078）366-5051 http://www.soc.nii.ac.jp/jacs2/ http://www.pac.ne.jp/jacs39/program.html
	5日	すまいる「親の会」主催 「無精子症と診断されたカップルに寄り添うケア」	港区男女平等参画センター 「リーブラ」 （東京）	kiyomi.ns@tmd.ac.jp（清水）
	5日	すまいる「親の会」・DIOffspringGroup主催 「AID討論会」	港区男女平等参画センター 「リーブラ」 （東京）	Kiyomi.ns@tmd.ac.jp（清水）
9月	3日	日本不妊看護学会（第4回）	山梨大学医学部臨床大講堂 （山梨県中央市）	山梨大学医学部看護学科： TEL（055）273-8798 FAX（055）273-8798 http://jsin.umin.jp/ http://www.Yamanashi.ac.jp/education/medical/nursing/clinmat/top.htm
	6日・7日	日本ヒューマン・ケア心理学会（第8回）	神戸女学院大学 （西宮市）	神戸女学院大学人間科学部島井研究室： FAX（0798）51-8418 http://www.cog.is.tohoku.ac.jp/rsiwasaki/
	21日・22日	日本受精着床学会（第24回）	軽井沢プリンスホテル （軽井沢市）	群馬大学医学部産科婦人科学教室： TEL（027）220-8423 FAX（027）220-8443 http://www.jsfi.jp/
	22日・23日	兵庫県立大学看護学部 第13回国際セミナー 「看護実践と研究の循環」	兵庫県立入学看護学部 明石キャンパス （明石市）	兵庫県立大学事務局 明石キャンパス事務 部総務課 国際セミナー担当 TEL（078）925-0860 FAX（078）925-0858

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
10月	14日・15日	第9回日本IVF研究会	ハイアット・リージェンシー・オーサカ (大阪府)	日本IVF研究会 http://www.ivf-et.net
	21日～25日	Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine	ニューオーリンズ (合衆国)	ASRM http://www.asarm.org
11月	8日～10日	日本生殖医学学会 (第51回)	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)、リーガロイヤルホテル (大阪市)	大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学 TEL (06) 6879-3531 FAX (06) 6879-3539 http://www.jsfs.or.jp http://www.congre.co.jp/51jsrm
	9日・10日	日本母性衛生学会 (第39回)	名古屋国際会議場 (名古屋市)	名古屋大学医学部保健学科 TEL (052) 719-3109 FAX (052) 719-3109
12月	2日・3日	日本看護科学学会 (第26回)	神戸国際展示場、国際会議場 (神戸市)	日本看護科学学会事務局 TEL (03) 5805-1280 FAX (03) 5805-1281
	7日～10日	日本家族計画協会 「コメディカルのための遺伝カウンセリングセミナー (上級)」	場所未定 (東京都)	日本家族計画協会 研修課 TEL (03) 3269-4785 IP電話 (050) 3386-3052
平成19年3月	10日・11日	日本助産学会学術集会 (第21回)	別府ビーコンプラザ (別府市)	日本助産学会 http://square.umin.ac.jp

もしも不妊看護実践で行き詰ったら..... 日本不妊看護学会が相談にのります

実践開発委員会では、会員を対象にホームページ上で相談活動を行っています。
 どうぞお気軽にご相談下さい。

取り扱う相談とは？

- 事例の相談
- 生地医療の知慮的なことに関する相談
- 不妊の方と向き合う時の看過職自身のジレンマに関する相談
- 看護する場の改善 (相談室開設など) にもとまう相談 等

相談される場合は.....

日本不妊看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相識内審記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入

九州地区勉強会報告

日 時：平成18年2月5日

場 所：国家公務員共済組合連合会浜の町病院

参加者：44名

テ - マ：「生殖補助医療による多胎妊娠の問題を考える」

講演

テーマ：「新生児医療における多胎の現状」

- NICUの現場から伝えたいこと -

国立病院機構九州医療センター

小児科医長周産期センター長 佐藤和夫先生

九州医療センター（2000 / 1 / 1～2003 / 6 / 17の期間）でのNICU入院患者の約13.3%は不妊治療により山生し、そのうち80%は多胎児だった。低体重児の約20%、早産児の約18%が不妊治療例。不妊治療を行っている施設は不妊治療に伴う多胎妊娠のリスクについての情報提供が必要であり、山産までの追跡調査を行う使命がある。

事例1

テーマ：「ARTの場で胚移植数の自己決定を

援助するための情報提供のあり方」

蔵本ウイメンズクリニック 福田貴美子

蔵本ウイメンズクリニックでの治療成績を生産率まで追跡調査した結果などをまじえ報告があった。妊娠自体が難しいため多胎はリスクがあるとわかっているにもかかわらず、リスクの説明だけでは決めきれない。個々の希望や条件があり、情報提供の難しさがある。

事例2

テーマ：「IVF後の双胎を出産された方の振り返り」

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 松尾則子

不妊治療後の多胎妊娠に関しては予測される問題に対して夫や両親など家族を含めて情報提供し、準備を促す必要性がある事がわかった。

グループワーク

（情報提供のあり方と看護師のかかわりについてディス

カッションを行って出た意見）

- 胚移植を決める時 -

* 不妊治療初診時での説明、正確なデーターを示し、先を見通した情報提供が重要

* 最初の説明は夫婦（カップル）に行う

* 双胎のリスクは正しく話し、考えさせるきっかけを作る

* 「複数胚移植して減胎すれば……」と思っている人

もいるので“正しい情報”や“命の大切さ”などを伝える必要がある

* 胚移植数については専門家の意見、治療背景を考えて夫婦で決めてもらうことが大切

* 小児科医より双胎、品胎についての説明会を開催してもらい、その後、看護師が個別にフォローする

* 多胎についてはリスクの情報提供も行うが明るい情報も伝える

* 多胎のリスクは説明してもその後のイメージとしてつながっていないかも知れないため一通り（妊娠・出産・育児）についての情報提供が必要

- 妊 娠 中 -

* 多胎妊娠になった時点でその後どのような状況になるか折々に伝えていく

* 減胎手術に関して情報提供できない

* 帝王切開なども含めて伝える

* リスクを主治医に説明してもらう

* 双子のサークルなど妊娠中から勧める

* 声かけしてその時々々の不安の表出を図る

* 妊婦の訴えに対しては傾聴と共感の姿勢で関わる

* 夫や家族を含めて情報提供する

* 産後サポートしてくれる人を探しておく必要性を説明する

- 出 席 後 -

* 保健所の新生児訪問システムの利用を紹介し、地域との連携をはかる

勉強会終了後アンケート

（33名回答）

参加目的達成度

達成できた・・・・・・・・・・・・・・・・ 11人（33%）

ほぼ達成・・・・・・・・・・・・・・・・ 22人（67%）

第4回 日本不妊看護学会学術集会ご案内

学術集会テーマ

「社会に向けて発信しよう 生殖医療の現場とサポーター」

1. 会期・会場

R : 2006年9月3日(日) 10:00 ~ 16:30

2. 学術集会概要

- 10:00 - 10:30 会長講演 「生殖医療の現場と認定看護師の活躍」
遠藤俊子(山梨大学大学院医学工学総合研究部 臨床看護学講座 教授)
- 10:30 - 11:00 講演1 「認定看護師の活動の実際」
丸山由美 不妊認定看護師(横浜市立大学市民総合医療センター)
- 11:00 - 11:45 講演2 「不妊に悩む家族の様相」
宮本まき子 家族カウンセラー(オフィス・ミヤジン代表取締役)
- 11:45 - 12:45 休憩
- 12:45 - 13:15 総会
- 13:15 - 15:20 一般演題
- 15:20 - 15:50 教育講演1 「わが国の生殖医療の実状—社会医学の立場から」
山県系然太郎(山梨大学大学院医学工学総合研究部 社会医学教室 教授)
- 15:50 - 16:20 教育講演2 「不妊治療最前線」 星 和彦(山梨大学医学部附属病院病院長
山梨入学大学院医学工学総合研究部 産婦人科教室 教授)
- 16:20 - 16:30 閉会
- 17:00 - 18:30 懇親会

3. 参加申し込み方法

ニュースレター10号の際にお送りいたしました振替用紙、または郵便局備え付けの振替用紙をご利用の上、下記振込口座へお手続きください。

1) 学術集会参加費

事前申し込み、8月10日までにお振込みの場合

会員4,000円、非会員5,000円、学生(大学院生・研修生は除く)1,000円

当日参加

会員5,000円、非会員6,000円、学生(大学院生・研修生は除く)2,000円

2) 昼食について

事前申し込み時に1,000円にて、お弁当の予約を受け付けております。

当日、受付にて引換券をお渡しいたします。昼食時、引換券を提示の上、ご利用ください。

3) 懇親会

(1) 日時: 2006年9月3日(日) 17:00 ~ 18:30

(2) 場所: ことね

(3) 事前申し込み時に受け付けます。参加費: 3,000円(当日参加も可能)

4) 参加費振込先

郵便振替 口座番号 00200 - 3 - 95653

加入者名 第4回日本不妊看護学会学術集会事務局

4. 交通のご案内

山梨大学医学部臨床大講堂・小講堂(医学部キャンパス)

〒409-3898 山梨県中央市下河東1110

*山梨大学は、甲府キャンパス(甲府市)もございますのでご注意ください。

交通

新宿方面から

JR中央線甲府駅下車

甲府駅からJR身延線乗り換え: 常永駅下車、タクシーで大学まで約5分(徒歩約15分)。

甲府駅からバス: 改札を出て左折。エスカレーターを下りて、バスターミナル向って一番左の8番乗り場から、山梨医大病院行きのバスに乗り。山梨大学医学部附属病院前まで約30分。

バス時刻：8：55甲府駅発 9：21山梨医大病院着
9：15甲府駅発 9：41山梨医大病院着
11：15甲府駅発 11：41山梨医大病院着
(バス時刻表：平成18年3月現在)

甲府駅からタクシー：タクシーで、山梨大学医学部
附属病院前まで約30分。

大阪方面から

JR新幹線新大阪 静岡 身延線東花輪着タクシーで
大学まで約5分

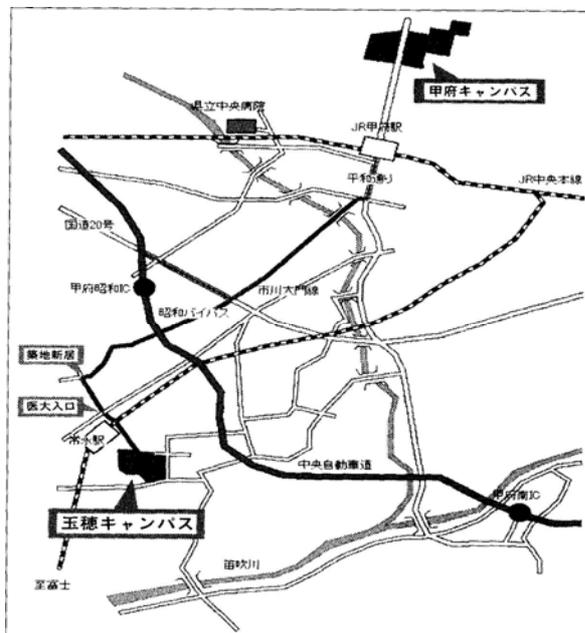
車でいらっしゃる場合

中央道甲府昭和ICより約15分、病院正面の入口より
入り右折(左折すると患者様用の駐車場、ゲートは閉鎖し
ている)。そのまま直進し左手に見える駐車場を越えて、
開放されているゲートに入る。

*こちらの職員駐車場にお車をお止め下さい(駐車場代は
無料)

***山梨大学医学部附属病院正面玄関前に、
会場までの案内表示がございます。**

大学地図



5. 宿泊

各自ご手配をお願いいたします。(宿泊施設は大学周辺にはあ
りません。)

第4回日本不妊看護学会学術集会事務局

〒409-3898 山梨県中央市下河東1110

山梨大学医学部看護学科 臨床看護学講座母性看護学内

理 事 会 報 告

第6回理事会報告

日 時：2006年5月20日(12) 13時～15時

場 所：聖路加看護大学 505

出席理事：森(明)、有森、福井、野澤、村本、森
(恵)、清水

報告事項

1. 会員数と入退会報告：現在の会員数232名
2. 常任委員会報告
 - 1) 編集委員会：現在、第3巻第1号の編集作業を行っている。6月発行予定
 - 2) 広報委員会：NL11号は6月末発行予定。300部印刷予定。
 - 3) 教育委員会：実践看護セミナーの企画を進めている。
 - 4) 実践開発委員会：引き続きメールによる相談活動を行っている。
 - 5) 将来検討委員会：研究助成の申し込み、受付中。
3. 第4回日本不妊看護学会学術集会の準備状況について
4. 第4回実践看護セミナー準備状況報告
5. 役員選挙経過報告：5月18日に開票。結果は7月理事会にて報告予定。

6. ワーキンググループ活動経過報告

- 1) 看保連対応WG：平成20年の診療報酬改定にむけた看護技術の再検討にむけて、希望書の作成を行っている段階にある。
- 2) 学会発展構想WG：会員の増員、患者団体との協働、研究の蓄積、国際交流の促進、日本生殖看護学会への名称変更等について、今後検討予定。

1. 入会審査：9名の入会が承認され
2. 第4回実践看護セミナー準備状況報告
3. JSIN webサイトへのリンクに関する内規の検討
 - ・研究協力申し込みの場合、フィンレージの会は、費用が必要となっている。本学会も、費用を必要とする。(5000円/3ヶ月)会員は、1,000円/3ヶ月。
4. 「産婦人科サーチ」からのリンク依頼について：承認された。
5. 次次期学術集会長の候補について(2008年：第6回)
6. 学会誌寄贈依頼への対応：日本科学技術振興機構(JMEDI)へ、抄録までを掲載する。

すまいる「親の会」からのお知らせ 無精子症と診断されたカップルに寄り添うケア

無精子症と診断されたら、子どもをあきらめるか、養親になるか、AIDかという選択しかありませんでした。しかし、最近では、TESEやMD-TESEの導入により新しい、希望が持てるようになりました。しかし、この技術にもメリット・デメリットがあります。また、精子が回収できなかったカップルへの支援も現場では必須でしょう。

このようなカップルへの支援について日ごろ取り組んでいる、看護師・カウンセラーで情報交換会を行いたいと考えました。男性不純のケアに興味のある方、すで実践している方、意見をお頃日こirhノ合い、学びませんか？

日時：平成18年8月5日（土）

場所：東京都港区の男女平等参画センター「リーブラ」

資料代：1,500円

*参加ご希望の方は事前予約はいりません。南接会場
においてください。

*この講演会は看護師・カウンセラーが対象です。
(学生はOK)

話題提供者1 9:30 - 11:00

看護師 「TESEやMDLTESE」をうけるカップルへのケア
木場公園クリニック 菅野伸俊

看護師 AIDを受けるカップルへのケア
浅山レディース 塩沢直美

カウンセラー カップルの気持ちに寄り添う
レディースクリニック京野 尻山千品

話題提供者2 11:10 ~ 12:10

AIDで生れた子どもの立場から
医療者やAIDを選択する親に伝えたいこと
DIOffspringGroup

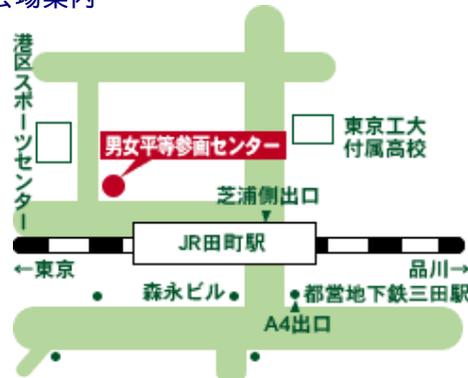
研究者の立場から

AIDを選択するカップルの現状

慶応義塾大学 長沖暁子

質疑応答 12:10 - 12:30

会場案内



問い合わせは事務局まで

事務局 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所

リプログクティブヘルス看護学

TEL / Fax 03 - 5803 - 5347

メール kiyomi.ns@tmd.ac.jp

すまいる「親の会」事務局 清水きよみ

事務局からのお知らせ

1. 日本不妊看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望、ご意見などがありましたらFAX (03 - 5550 - 2266) もしくはeメールで (jsin@slcn.ac.jp) お気軽にお問い合わせ下さい。
2. 住所・氏名等の変更がある場合は、速やかにご連絡下さい。
3. 知り合いの方で入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますのでお名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新していますので、どうぞご活用下さい。

編集後記

じめじめした梅雨が過ぎればよいよ夏本番ですね。今回は、平成18年度の関連学会・研修会等のお知らせや、勉強会のお知らせを掲載いたしました。情報交換しながら共に学びを深めていきたいと思っております。

ニュースレターへのご意見ご要望をお待ちしております。

(広報委員：遠藤・林・小林・丸山)

日本不妊看護学会

Japan Society Infertility Nursing
(J.S.I.N)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内

Tel & Fax 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp